

# 横浜市歴史博物館

## 平成25年度事業報告

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

歴史博物館は、開港に至るまでの市域の歴史を「人々の生活」の視点から解明し、市民が「ふるさと横浜」の歴史と文化に親しみ、学ぶことに寄与するため、高い専門性に裏付けられた事業を進めるとともに、地域や学校との連携を一層深め、市民の期待や要望に即した幅広い活動を目指し、本年度も各種事業に積極的に取り組みました。

博物館事業の根幹となる資料の収集・保管・整理、修繕・燻蒸等は着実に実施しました。しかしながら、歴史収蔵庫において虫害資料が発見されたため、収蔵庫の燻蒸を実施すると共に、今後の日常的な収蔵と燻蒸の関係を再検討し、対応策を策定しました。調査研究事業は7本を行い、その成果は講座、企画展の開催に活用しました。

企画普及事業では、展覧会を6回開催すると共に、学校団体による利用促進のための月曜日開館、子ども向けにも配慮した年中行事の展示、小学校への出前授業・出張土器焼き体験や、集客イベントとしての学芸員による常設展示解説、収蔵資料ミニ展示と解説などを実施しました。市民協働では、地元の郷土史の会との連携、遺跡公園ガイドボランティアの活動とともに、活動支援ボランティアも着実に活動を積み重ねました。また、環境創造局のみどりアップ事業と連携したワークショップを実施し、都筑民家園と協働して歴史博物館・民家園・遺跡公園を利用した都筑遺跡公園民家園アート月間を昨年度に引き続き開催しました。博物館の講座OB会の4団体がそれぞれの活動を行うと共に、博物館の支援、博物館との協働を目的に作られた「博物館もりあげ隊」が活動を展開しました。7月には、全国歴史民俗系博物館連絡協議会の年次集会を当館で開催しました。

また、文化芸術振興費補助金「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」に応募した「学校内歴史資料室を活用した博物館デビュー支援事業」が採択され、当館を中核館として実行委員会を作り、小学校が所蔵する資料の調査・整理などを実施しました。

施設の管理運営面では、経年劣化の機器類の恒常的な保守を行い、野外施設では劣化した竪穴住居と高床式倉庫、案内板等の修繕を行いました。

これらの事業を通して、施設の有効利用と認知度・来館者満足度が向上し、当初設定した目標もほぼ達成することができました。

### 1 資料収集保管事業（定款第4条第1項第1号①）

展示・教育・普及・閲覧公開等の博物館活動に活用する資料を、購入・複製・マイクロ撮影等により収集し、分類・整理するとともに、良好な状態で保管するため、資料の修繕・燻蒸を行いました。

#### (1) 資料の収集・管理

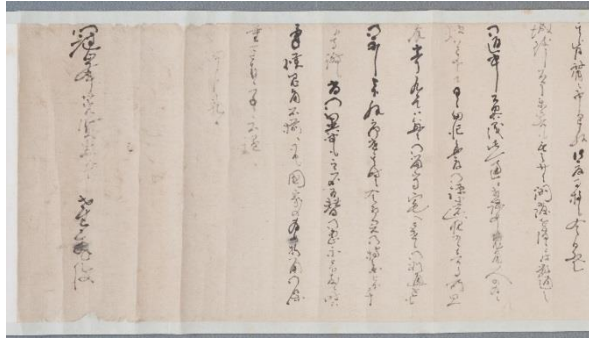
項目	点数	事業内容
資料の寄贈・寄託	寄贈 16件 15,925点 寄託 0件 0点	主な収集資料：佐久間象山漢詩掛軸、新田吏員派出所看板、地神講掛軸、行李・たらいなど生活雑貨、和文タイプライター、念仏講関係資料ほか

実物資料の購入	9件23点	主な収集資料：関東名所図会 相模大山良弁之瀧、合戦浮世絵貼込、上杉房定書下、佐久間象山書簡、寛永版古事記、鎌倉北条九代記ほか
レプリカ製作	2件2点	主な資料：三殿台遺跡出土縄文時代後期注口土器、豊嶋宮城文書
マイクロ撮影	4,200コマ(製本44冊)	主な資料：金沢藩士萩原家文書・松澤家文書(製本のみ)
資料の修繕・保存	3件3点	主な資料：地神講掛軸、赤羽刀、古梅谷遺跡出土木製品の修復
資料の整理活用(収集資料のデータ入力)	2,876件	実物資料・図書文献資料のデータ入力を行った。
資料の整理活用(収集資料の貸出)	3件15点	他の博物館・資料館での企画展・特別展に本館所蔵資料の貸出を行った。
図書資料の公開	3765件	図書閲覧室で、文献資料の公開及びレファレンスを行った。
写真資料の撮影・整理	撮影数 980カット	常設展示や企画展・特別展に関する資料及び収集資料の撮影と整理を行った。
画像資料の貸出	貸出件数59件116点	他の博物館や公共機関、出版社などへの写真資料の貸出を行った。

(2) 資料収集内訳 (H24.4～H25.3)

区 分	購入	複製	寄贈	寄託	合計	累計
絵 画 (点)	2 (6)	— (—)	— (—)	— (—)	2 (6)	1,944 (1,942)
工芸品 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	132 (132)
彫 刻 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	20 (20)
書 跡 (点)	— (—)	— (—)	2 (—)	— (—)	2 (—)	51 (49)
典 籍 (点)	18 (76)	— (—)	— (—)	— (—)	18 (76)	4,083 (4,065)
古文書 (点)	2 (4)	1 (—)	— (—)	— (—)	3 (7)	31,182 (31,179)
古記録 (点)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	39 (39)
絵 図 (点)	1 (2)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (2)	169 (168)
歴史資料 (点)	— (28)	— (—)	79 (2,787)	— (—)	79 (2,815)	16,623 (16,544)
考古資料 (点)	— (—)	1 (6)	15,495 (6)	— (—)	15,496 (12)	16,875 (1,379)
民俗資料 (点)	— (—)	— (—)	349 (142)	— (—)	349 (142)	9,738 (9,389)
図書文献資料 (点)	264 (279)	— (—)	2,211 (1,621)	— (—)	2,475 (1,900)	62,737 (60,262)
合 計	287 (398)	2 (6)	18,136 (4,556)	— (—)	18,425 (4,950)	143,593 (125,168)

※ ( ) 内は、前年度点数。



購入資料 佐久間象山書簡



寄贈資料 地神講掛軸 (左)  
新田吏員派出所看板 (右)



(3) 図書閲覧室利用状況

項目	平成25年	平成24年	平成23年
閲覧室利用者数 (人)	7,471	6,394	7,646
複写申込件数 (件)	504	560	468
複写枚数 (枚)	4,812	5,020	4,469
レファレンス件数 (件)	400	550	582

(4) 資料の保管

項目	目的・意図 及び 内容・成果
文化財害虫への対応	8/29 (木) に5階歴史収蔵庫内で文化財害虫による被害を確認。発生源の資料を隔離し、8/30～9/20 燻蒸庫にて燻蒸を実施。また、収蔵庫内の害虫飛散を想定し、9/30～10/3、4～6階の収蔵庫全体の燻蒸を実施した。収蔵庫から出した資料は目視のみならず、必ず燻蒸をして戻すという対応策を講じ、実施に移した。
保存燻蒸処理	燻蒸庫を使った二酸化炭素燻蒸のほか、資料に則した簡易燻蒸も合わせて行った。
環境検査	館の環境を把握するため、定期的に昆虫類モニタリング、菌類測定、塵埃測定、光学的測定を行った。

(5) 資料保管施設の管理

保管施設	保管資料
歴史博物館収蔵庫 (1,901 m <sup>2</sup> )	原始・古代から近現代までの考古資料・歴史資料・民俗資料。

## 2 調査研究事業（定款第4条第1項第1号①）

収集資料の整理や調査研究、企画展や講座・講演会の基礎的資料収集のための調査研究・資料整理を行いました。

### （1）基礎的調査研究1：収蔵資料に関する調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
縄文時代後期の漁具の研究 （3／3年次）	市域出土の縄文時代後期の漁具・動物遺存体を分析することにより、当時の漁労活動の実態を明らかにする。市域の貝塚出土資料の観察と図化を行い、考察を行った。
佐久間象山資料の研究 （3／3年次）	当館所蔵「熊倉家伝来 佐久間象山関係資料」を分析し、佐久間象山と横浜開港の関係を再検討する。明治期の政治家、実業家、文化人等の人名を書き上げた資料を分析、横浜での象山の顕彰運動との関連を指摘し、象山と横浜との関係を考えた。
横浜市所蔵街頭紙芝居の研究 （2／3年次）	当館所蔵該当紙芝居を活用するため、複製を毎月6巻制作し、ラストサタデープログラムで実演した。他施設所蔵街頭紙芝居の調査、一誠会関係者への聞き取り調査を行った。

### （2）基礎的調査研究2：地域資料に関する調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
埴輪の生産体制と地域社会の研究 （3／3年次）	横浜市域出土の埴輪の事例から、生産・供給体制の分析を通じて地域間ネットワークの様相を検討する。出土状況や関連情報の収集・未発表資料の図化を行い、出土事例の集成表を作成した。
久良岐郡蒔田郷の吉良氏・蒔田氏の研究 （2／3年次）	久良岐郡蒔田郷の吉良氏・蒔田氏：室町・戦国時代、南区蒔田を拠点とした吉良氏・蒔田氏の資料を収集・検討することにより、その実態を明らかにする。本年度は武蔵吉良氏にかかわる先行研究の文献を収集し、武蔵吉良氏の発給文書のみをリスト化、古文書の所在確認を行った。
横浜市域の産育習俗にかんする民間信仰の調査研究 （1／3年）	青葉区鉄町志村家で資料保管状況下見を行い、調査研究内容の説明と資料借用を行った。8月から資料整理と文献収集を行った。その結果、対象資料群が1,145点であることが判明した。

### （3）市民協働の調査研究：フィールド調査を基礎として、市民とともに調査研究を行う

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
市民協働民俗調査 （3／3年次）	相模原市立博物館が組織している民俗調査の市民団体との交流会を実施した。源流域の再訪や石造物の石材同定フィールドワークを実施した。打ち合わせでは今年度の計画を話し合い、各自のテーマについて報告を行った。

### （4）企画展関係にともなう調査研究：企画展・特別展の開催に向けての調査研究

項 目	目的・意図 及び 内容・成果
「ムラに生きる人々」に関する調査研究	26年度以降に開催する予定の企画展の検討と、基礎的な資料の調査を行った。

「人と物の流れ」に関する調査研究	26年度以降に開催する予定の企画展に関わる資料の調査、借用交渉などを行った。
「変わる横浜の形」に関する調査研究	26年度以降に開催する予定の企画展の計画立案、基礎的な資料の確認調査を行った。

(5) 資料の調査整理

項目	目的・意図 及び 内容・成果
資料の整理	資料収集活動や調査研究で収集した資料・データなどの整理を行った。

### 3 常設展事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示室において、収蔵資料の公開や、学芸員による解説を実施することで、積極的な集客を図りました。また、展示資料・ジオラマ類・映像機器類の保守点検を実施しました。

(1) 常設展示室での実施事業

項目	目的・意図 及び 内容・成果
常設展示解説	毎月末土曜日に「ラストサタデープログラム」の一環として、学芸員による常設展示解説を行った。 参加者：223名（1日2回：全24回）
収蔵資料ミニ展示	7・8・9月と1・2・3月の6回、各時代の収蔵資料をスタディサロンで展示し、各最終日に解説を行った。 解説参加者：70人（1日2回（8月は2日）：全14回）

(2) 常設展示室観覧者の推移（目標数 79,500人）

	有料観覧者（人）				無料観覧者（人）	合計（人）	前年比	開館日数	1日平均入館者（人）
	大人	高大	小中	計					
25年度	10,925	1,066	10,502	22,493	49,848	72,341	105.7%	305日	237
24年度	10,710	1,064	10,663	22,437	46,020	68,457	92.4%	310日	221
23年度	10,767	1,239	12,056	24,062	50,038	74,100	105.1%	311日	238

### 4 企画普及事業（定款第4条第1項第1号②）

常設展示を補うテーマや、新たな調査研究の成果に基づく企画展示を開催しました。同時に、市民に横浜の歴史をより身近で興味深く感じてもらえるように体験学習や歴史講座等を開催し、生涯学習活動を支援しました。

また、地域・学校や市民ボランティアと連携した事業や、施設の有効利用と認知度・顧客満足度を高めるための事業を実施しました。

本年度も昨年度に引き続き、環境創造局のみどりアップ「森の収穫体験事業」と連携し、ふるさと横浜探検「恩田川流域の田んぼと新治の里山を訪ねて」、体験学習「縄文顔を粘土でつくろう」・「縄文時代の土偶」・「ぞうり編み」・「和風」・「紙すき」・「横浜の土偶」、竪穴住居に泊まろう、実験考古学講座「縄文土器づくり」、企画展「昔のくらしと年中行事」の開催前のプレイベントとして「博物館DE どんど焼き」を実施しました。

(1) 企画展・特別展の実施

企画展名/開催期間	観覧料	観覧者数	目的・意図 及び 内容・成果
特別展「N.G. マンローと日本考古学」 H25. 4. 6 (土) ～5. 26 (日) 会期 48 日	大人 400 円 大高 300 円 小中 100 円	20, 100 人 (目標数) 25, 000 人 1日あたり 418 人	横浜の考古学の先駆者であるスコットランド出身の考古学者・医師 N.G.マンローの業績に注目した。展示の冒頭では主に明治時代初期に活躍した外国人研究者の業績を取り上げ、マンローの誕生から横浜在住期間までの足跡を紹介した上で、三ツ沢貝塚におけるマンローの考古学的調査の成果を紹介した。国立スコットランド博物館所蔵資料を撮影・パネル展示した点は、今回の展示の特筆すべき成果だと言えよう。東京大学総合研究博物館の三ツ沢貝塚出土人骨は、東大以外では初の公開となった。マンローが暮らした明治後半～大正時代の横浜旧居留地での生活については、発掘資料と着色写真によって示した。三ツ沢貝塚の発掘以降のマンローについても扱った。このほか、国立歴史民俗博物館が作成したマンローの映画フィルムについてのドキュメンタリー『Ainu past and present』の冒頭部分 12分間を会場内で常時上映した。また展示に関連して、下記の事業を実施した。 ① フロアレクチャー 3日6回 参加者 80人 ② 親子向けフロアレクチャー 4日4回参加者 95人 ③ 研究講座 参加費：200円 4/13 (土)「スコットランドのマンロー資料」参加者 19人 4/27 (土)「マンローの頃の横浜」参加者 23人 5/11 (土)「Prehistoric Japan を読む」参加者 27人 ④ 遺跡散歩「横浜にマンローの足跡を訪ねて」 4/24 (水) 参加費：各 200円 午前「三ツ沢貝塚周辺を歩く」参加者 32人 午後「横浜旧居留地を歩く」参加者 23人 ⑤ 講演会「N.G.マンローと日本考古学」 参加費：500円 参加者：114人 ・「日本考古学史におけるマンロー」 講師：岡本孝之（神奈川県考古学会会長） ・「三ツ沢貝塚の実像」 講師：中村若枝（神奈川県考古学会副会長） ・「箱根と軽井沢での満郎」

			<p>講師：坂本彰（(株) アーク・フィールドワークシステム）</p> <p>⑥ バスツアー「軽井沢にマンローの足跡を訪ねて」 5/22（水） 参加費：3500円 参加者37人</p> <p>⑦ 図録等刊行物の作成 2,000部作成 定価1,000円、売上402部</p> <p>⑧ 関連図書コーナーの設置（図書閲覧室）</p>
<p>収蔵資料展「博物館 コレクション 絵巻 でみる江戸時代」</p> <p>H25.6.8（土） ～7.7（日） 会期26日</p>	<p>大人 200円 大高 100円 小中 50円</p>	<p><b>6,792人</b> <b>（目標数</b> <b>6,000人）</b></p> <p>1日あたり 261人</p>	<p>当館が開館以来収集してきた、横浜の歴史にかかわるさまざまな資料の中から、江戸時代の絵巻物を取りあげる収蔵資料展を行った。テーマは一つに絞らず、さまざまな絵巻を展示し、そこから読み取れる江戸時代の生活や文化、事件などを紹介した。関連企画として絵巻鑑賞ミニ講座やフロアレクチャー、絵巻に触れる体験、ふるさと横浜探検（普及事業と合同）などを行った。また、社会科見学の小学生が来館する時期だったこともあり、小学生向けの解説パネルを設置した。</p> <p>① フロアレクチャー 3日6回 参加者115人</p> <p>② 絵巻に触れてみよう（体験学習） 10日間実施 参加者146人</p> <p>③ 絵巻鑑賞ミニ講座 参加費：200円 解説：小林紀子（展示担当学芸員） 「武士の世界—大名行列絵巻・鷹狩絵巻—」 6/23（日） 参加者63人 「庶民の世界—風俗絵巻—」 7/6（土） 参加者83人</p> <p>④ ふるさと横浜探検「東海道宇津ノ谷峠と薩埵峠を訪ねて」6/12（水） 参加費：6000円 参加者33人</p> <p>⑤ 図録等刊行物の作成 1500部作成 定価500円、売上386部</p> <p>⑥ 関連図書コーナーの設置（図書閲覧室）</p>
<p>企画展 「水へのいのり 古代東国の川辺と井 戸のまつり」</p> <p>H25.7.27（土） ～9.23（月・祝） 会期51日</p>	<p>大人 300円 高大 200円 小中 100円</p>	<p><b>4,401人</b> <b>（目標数</b> <b>7,000人）</b></p> <p>1日あたり 86人</p>	<p>水はいつの時代も生命の糧であると同時に、ひとたび猛威をふるえば恐ろしい災害をもたらす存在でもある。日本近代水道発祥の地である横浜では、市内都筑区の古梅谷遺跡から、古代の水路とそこでおこなわれたまつりの痕跡がみついている。人々は遠い昔から水への願いやおそれを胸に、川辺や井戸などで神に捧げものをしたり、ケガレをはらうためのまつりをおこなってきた。この展覧会では、古墳時代から奈良・</p>

			<p>平安時代の東国の遺跡より出土した資料や文献を通して、古代の人々の水への信仰のありようを探った。</p> <p>① フロアレクチャー 3日6回 参加者58人  ② 親子向け展示解説 4日8回 参加者164人  ③ 講演会 参加費500円</p> <p>・「東アジアにおける洪水伝承の成立と展開」  講師：北條勝貴（上智大学准教授）  8/17（土） 参加者66人</p> <p>・「古墳時代豪族の治水と神まつり」  講師：若狭 徹（高崎市教育委員会）  9/15（日） 参加者66人</p> <p>④ 研究講座 参加料200円  講師：柳沼千枝（展示担当学芸員）  8/10（土）「王の支配と水」参加者29人  9/8（日）「水神の化身」参加者38人</p> <p>⑤ 見学バスツアー「横浜の水源地・山梨県道志村を尋ねて」8/23（金）参加費4000円 参加者25人</p> <p>⑥ 散策ツアー「横浜水源記念館を尋ねて」 参加費200円  9/10（火） 参加者16人</p> <p>⑦ 図録等刊行物の作成 1500部作成  定価800円、売上253部</p> <p>⑧ 関連図書コーナーの設置（図書閲覧室）</p>
<p>企画展  「横浜市立大学コレクション・古地図の世界ー地球のかたちと万国の大地ー」  H25. 10. 12(土)  ～11. 24(日)  会期 38日</p>	<p>大人 300円  高大 200円  小中 100円</p>	<p><b>5,055人</b>  <b>(目標数</b>  <b>7,000人)</b>  1日あたり  133人</p>	<p>この展覧会では、古地図をとおして江戸時代の人々が具体的に抱いていた世界・地域認識を知ることができると同時に、巨大な地球全図に収められた万国の姿、色彩豊かな大地の形から、作品としての美しさ、地理が次第に明確になる歴史的な過程を、古地図からたどることができることを示した。また、仏教天文学に関わる作品では、仏教が西洋天文学に出会うことによってそれまで伝統的に考えられていた仏教的世界をどのように解釈しようとしたのか、その思考過程を紹介した。地理上の世界認識が、インドや須弥山を中心とする伝統的な世界から、欧米を含む現代的な地理へと大きく変容した時代に思いを馳せることのできる内容とした。</p> <p>① フロアレクチャー 6日6回 参加者100人  ② 特別講演会 参加料：500円  「遙かなる大地ー世界図の表現をめぐってー」  11/16（土） 講師：金田章裕（人間文化研究</p>



			<p>機構・機構長) 参加者88人</p> <p>③ 研究講座 参加料: 300円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「横浜市立大学古地図コレクションについて」 講師: 松本郁代 (横浜市立大学准教授) 10/13 (日) 参加者29人</li> <li>・「地図の中の歴史～絵地図と測量図～」 講師: 山田俊治 (横浜市立大学教授) 10/19 (土) 参加者12人</li> <li>・「デジタルアーカイブと“地図”」 講師: 赤間亮 (立命館大学教授) 10/27 (日) 参加者9人</li> <li>・「地図の文化史～江戸時代の世界観と社会～」 講師: 上杉和央 (京都府立大学准教授) 11/2 (土) 参加者34人</li> <li>・「地図の近代化と領域国家の形成～タイの事例から」 講師: 柿崎一郎 (横浜市立大学准教授) 11/9 (土) 参加者14人</li> </ul> <p>④ ミニ講座「絵図の見方・読み方 etc.」 参加費無料 講師: 斎藤司 (展示担当学芸員) 6回 参加者190人</p> <p>⑤ 図録等刊行物の作成 図録2000部作成 定価800円、売上704部</p> <p>⑥ 関連図書コーナーの設置 (図書閲覧室)</p>
<p>企画展「市指定文化財の“はにわ”たち」 「横浜の遺跡展－古代都筑郡の考古学」</p> <p>H24. 12. 7(土) ～H25. 1. 12(月・祝) 会期26日</p>	無料	<p><b>4,295人</b> (目標数 <b>3,700人</b>)</p> <p>1日あたり 165人</p>	<p>横浜市指定文化財である上矢部町富士山古墳(戸塚区)・北門1号墳(緑区)出土埴輪を紹介すると共に、綱島古墳(港北区)・日吉矢上古墳(港北区)・三保杉沢古墳(緑区)から出土した埴輪も合わせて展示した。同時に市内遺跡の調査・整理の成果を報告する「横浜の遺跡展 古代都筑郡の考古学－北川谷遺跡群から「郷」を考える－」、横浜市立学校総合文化祭「社会科作品展」を開催した。</p> <p>① フロアレクチャー 2日3回 参加88人</p>
<p>企画展 「むかしのくらしと 年中行事」</p> <p>H25. 1. 25(土)～ 3. 23(火・祝) 会期50日</p>	<p>大人 300円 高大 200円 小中 100円</p>	<p><b>15,960人</b> (目標数 <b>7,000人</b>)</p> <p>1日あたり 319人</p>	<p>本展覧会では、一年の中で今でも見られるものや既に見られなくなったものなど、ちょっと昔の横浜で見られた年中行事を通して、人々のくらしを紹介した。</p> <p>① 講演会 参加料: 500円 「江戸時代の日記に見る年中行事」 講師: 井上攻 (横浜ユーラシア文化館副館長) 2/9 (日) 参加者39人</p>

			<p>「盆と正月を中心とした神奈川の年中行事」 講師：長田平（元神奈川県立歴史博物館学芸員） 3/9（日） 参加者39人</p> <p>② 研究ミニ講座 参加料200円 第1回「横浜の年中行事概観」講師：展示担当学芸員 2/19（水） 参加者16人 第2回「日本の盆行事について」 講師：関悦子（荒川ふるさと文化館） 2/26（水） 参加者12人 第3回「家の行事・地域の行事」講師：担当学芸員 3/5（水） 参加者16人</p> <p>③ プレイメント「博物館 DE どんど焼き」 1/12（日） 参加者38人</p> <p>④ フロアレクチャー 2日4回 参加者43人 ⑤ 親子向けフロアレクチャー4日8回 参加者93人 ⑥ みんなでつくる写真展「わたしがみつけた横浜の年中行事」 出展数110点 ⑦ 図録等刊行物の作成 大人向 1500部、子ども向 3000冊作成 定価 大人向 800、子ども向 300円、売上 大人向 253部、子ども向 381部 ⑧ 関連図書コーナーの設置（図書閲覧室）</p>
--	--	--	---

(2) 企画展示室観覧者の推移 (目標数 56,000人)

	有料観覧者 (人)				無料観覧者 (人)	合計 (人)	前年比	開催 日数	1日平均 入館者(人)
	大人	高大	小中	計					
25年度	7,385	587	2,848	10,820	45,783	<b>56,603</b>	97.6%	239日	236
24年度	8,496	594	5,758	14,848	43,099	57,947	107.4%	239日	242
23年度	6,228	482	2,449	9,159	44,781	53,940	102.9%	246日	219



企画展「N. G. マンローと日本考古学」講演会



収蔵資料展「絵巻でみる江戸時代」展示会場



「市指定文化財のはにわたち」展示状況



企画展「昔のくらしと年中行事」  
親子向けフロアレクチャー

(3) 歴史講座等の開催

講座名称/開催日	参加者数	事業内容
古文書解読教室 初めての古文書 H25. 10. 4(金) ～12. 6(金) 毎金曜 10回連続	各回 38人 (目標数 40人) 合計 380人	初心者を対象に江戸時代の古文書を教材として解読の初歩を学ぶ講座を行った。 講師：斉藤司、小林紀子 会場：歴史博物館 研修室 参加料：5,000円
中世史講座 H25. 11. 20(水) ～12. 4(水) 毎水曜 3回連続	各回 25人 (目標数 30人) 合計 75人	「鎌倉幕府御家人 平子氏」をテーマとし、①武士の伝えた古文書②合戦の戦功と恩賞の古文書③所領支配の動揺というタイトルで実施した。 講師：阿諏訪青美 会場：歴史博物館 研修室 参加料：1,500円
民俗学講座 H25. 11. 20(水) ～12. 4(水) 毎水曜 3回連続	各回 17人 (目標数 30人) 合計 51人	①民具と民俗②横浜の年中行事いろいろ③横浜の民家というタイトルで3回実施した。 講師：刈田均、羽毛田智幸 会場：歴史博物館 研修室 参加料：1,500円
近世史講座 H26. 1. 15(水) ～2. 12(水) 毎水曜 5回連続	各回 35人 (目標数 40人) 合計 175人	「神奈川浦と野毛浦～二つの入江・入海の江戸時代～」をテーマに5週連続で実施した。 講師：斉藤司 会場：歴史博物館 研修室 参加料：2,500円
古代史講座 H26. 1. 15(水) ～2. 12(水) 毎水曜 5回連続	<b>各回</b> <b>62人</b> ( <b>目標数</b> <b>40人</b> ) 合計 310人	「古事記と日本書紀」、「律令」、「木簡」などをテーマに5回連続で実施した。 講師：平野卓治、柳沼千枝 会場：歴史博物館 講堂 参加料：2,500円

実験考古学講座 「縄文土器づくり」 H25. 2. 1(土) ～3. 15(土) 全4回	<b>各回</b> <b>20人</b> (目標数 20人) 合計 80人	横浜縄文土器づくりの会の指導で、港北ニュータウン出土の縄文土器をモデルに土器づくりの体験教室を行った。 会場：歴史博物館 工房・野外広場 参加料：3, 500円
開館19周年記念 特別講演会 H26. 1. 25(土)	<b>142人</b> (目標数 150人)	開館19周年を記念して「縄文人の生活と知恵ー横浜の遺跡を中心に」と題する特別講演会を行った。 講師：今村啓爾 (帝京大学教授、東京大学名誉教授) 会場：歴史博物館 講堂
講師派遣		地域の研究団体、歴史研究サークル等が主催する講座・講演会へ学芸員を派遣した。延べ56回。

(4) 体験学習の実施

会場/開催日	参加者数	参加料	事業内容
体験学習室 毎日開催	<b>61,663人</b> (目標数 60,000人)	無料	さまざまな道具に直接触れ、歴史を実感できる内容で実施した。 常時開催：銅鐸鳴らし、駕籠、火打石、鎧と兜等 ミニ展示 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生見学対応プログラム 4/5(金)～7/11(木)</li> <li>・ちょっと昔を探してみようー不思議なかたちの道具たち 7/11(木)～9/19(木)</li> <li>・江戸の旅・明治の旅 9/20(金)～11/28(木)</li> <li>・ちょっと昔を探してみよう 11/29(金)～4/3(木)</li> </ul>
体験コーナー H25. 4月 ～H25. 6月	29,457人	無料	小学校団体が多い4～6月にかけて、エントランスホールで火起こし疑似体験できるコーナーを設置し、ミニ体験を実施した。
工房 8/9を除き午前午後の 1日2回開催 (年度通算21日41回)	898人	300円	小学生の親子を中心に、楽しみながら歴史に触れる教室を開催した。 4/14(日)：小さな弥生土器 58人 6/22(土)・23(日)：小田原ちょうちん 95人 7/15(月・祝)：繭細工 34人 7/21(日)：竹の風車 42人 7/28(日)・31(水)：縄文顔 94人 8/9(金)・10(土)：万祝染 74人 8/14(水)：縄文ポシエット 63人

			8/22 (木)・23 (金)：勾玉づくり 135 人 10/6 (土)・7 (日)：縄文時代の土偶 54 人 11/23 (土)・24 (日)：ぞうり編み 79 人 12/14 (土)・15 (日)：和風作り 78 人 2/8 (土)・9 (日)：紙すき 45 人 2/16 (日)：横浜の土偶 47 人
大人の体験学習	12 人 (目標数 10 人)	1,200 円	6/16 (日)：あじろ編みでバッグを作ろう、
あじろ編み ワークショップ	27 人	350 円	4/29 (月・祝) 参加者 27 人 1/26 (日) 参加費：100 円 参加者 100 人
竪穴住居に泊まろう H25. 9.14(土) ～9.15(日)	<b>8 家族 28 人</b> (目標数 8 家族)	本年度のみ 大人 700 円、子供 300 円	小学生とその親を対象に遺跡の竪穴住居に宿泊する体験教室。本年は台風接近のため宿泊を中止し、火起こし・竪穴住居での食事・夜の遺跡見学及びナイトミュージアムを実施した。
勾玉ワークショップ H25. 7.6 (土)	26 人	700 円	聖セシリア女子中学高等学校に協力し、課外授業の一環として勾玉作りのワークショップを開催した。
勾玉ワークショップ H25. 11.27 (水)	4 人	500 円	横浜市聾支援学校の生徒を対象に、勾玉作りのワークショップを開催した。
出張ワークショップ H26. 3.9 (日)	60 人	500 円	都筑地区センターに出張し、勾玉作りのワークショップを実施した。
体験広場野焼き	<b>1,230 人</b> (目標数 800 人)	無料	工房で作った土偶等の野焼きを横浜縄文土器づくりの会と協働で行い、市民に公開した。 5/5 (日祝)、8/24 (土)、11/2 (土) ※雨天のため 10/26 から延期、3/15 (土)



体験学習 小田原ちょうちん



体験学習 勾玉づくり

(5) 「夏休み博物館たんけん隊」の実施

会場	開催日	参加者数	事業内容
常設展示室 企画展示室 博物館バックヤード	H25. 8. 4、 11、18、 25 (日) 1日2回	<b>164人</b> <b>(目標数 160人)</b>	博物館を楽しみながら関心を高めてもらうために、親子や児童生徒を中心に開催した。 内容：企画展の展示ポイント解説、常設展示室の照度測定体験、赤外線テレビカメラでの調査体験、博物館バックヤード見学など。

(6) 「ふるさと横浜探検」の実施 (目標数 30~35 人/回)

探訪地	開催日	参加者数	事業内容
横浜こと始め	H25. 5. 15 (水)	24人	「横浜事始め -馬車道から久保山へ-」と題し、関内地区から野毛山貯水池、久保山を通り、西横浜駅までの散策を外部講師の案内で散策した。 講師：半澤正時 参加料：700円
東海道バスツアー宇津ノ谷峠と薩埵峠を訪ねて	H25. 6. 12 (水)	33人	収蔵資料展との共催で、静岡県宇津ノ谷峠・丸子宿・薩埵峠を目的地とするバスツアーを実施した。 参加料：6,000円 (昼食含む)
恩田川流域の田んぼと新治の里山を訪ねて	H25. 9. 27 (金)	9人	横浜市域内陸部の原風景といえる「ヤト」の景観が残る緑区新治町と新治市民の森を外部講師の案内で自然観察をしながら散策した。 参加料：700円
埋蔵文化財センターから鎌倉へ -百八やぐら・覚園寺・永福寺跡を訪ねて-	H25. 11. 13 (水)	21人	埋蔵文化財センターとの共催で、埋文センターの展示見学とセンターから鎌倉までのハイキングコースを散策しながら、沿道のやぐらや寺院跡を訪ねた。 参加料：700円
鉢形城と比企の城郭を訪ねて	H25. 9. 27 (水)	42人	中世城郭をテーマとし、国指定史跡である鉢形城、杉山城、松山城の比企3城を現地で専門家の解説を受けながら訪ねた。 参加料：3500円



夏休み博物館たんけん隊



ふるさと横浜探検  
宇津ノ谷峠と薩埵峠を訪ねて

## (7) 集客イベント等

項目	開催日	参加者数	事業内容
子どもの日スペシャル 大塚遺跡まつり	H25. 5. 5	2,031人	大塚・歳勝土遺跡公園内で、火起こし体験（参加者：419人）、弓矢で狩り体験（参加者：460人）、古代米一口体験（参加者：255人）、土器の野焼き（見学者：897人）を行った。
都筑阪急 モザイクモール観覧車 無料招待	H25. 7. 27（土） ～ 8. 25（日）	455件	都筑阪急とタイアップ。入館券の半券でモザイクモール観覧車に無料招待
チボリ兄弟舎紙芝居	H25. 8. 17（土） ・ 18（日）	196人	街頭文化祭と題し、夏季集客事業の一環として、紙芝居の普及を目的に実施した。
東京都市大学と連携 したAR実験	H25. 8. 17（土） ～21（日）	139人	東京都市大学と連携したAR（拡張現実）実験。タブレット端末を利用した、原始Iブースでのクイズイベント。
「関東大震災」展関連 パネル展「東日本大震災 における歴史資料の 救援活動」	H25. 8. 1（木） ～10. 14（祝）	18,849人	開港資料館・都市発展記念館・市史資料室の「関東大震災」展に関連して、東日本大震災における文化財レスキューに関するパネルをエントランスホールにて展示。
都筑遺跡公園民家園 アート月間	H25. 10. 10 （木）～ 11. 29（金）	2,672人	・「1日楽しめる竹・TAKEイベント」（公園） 10/14（月・祝） 参加者614人 ・写真展「遺跡公園開園17年、同じ歳の風景」（エントランスホール） 10/19（土）～27（日） 見学者2,058人
博物館感謝デー	H26. 1. 25 （土）～26（日）	15,298人	常設展示室・企画展示室の無料開放。常設展示・特別展解説、時代衣装を装着した案内係、紙芝居、勾玉づくり、「昭和の横浜」ビデオの上映、土器復元パズル、鏡パズル、ショップフェアを実施した。
ラストサタデープログラ ム	全3回	185人	常設展示解説のほか、4,5,6月には正面玄関にて火起こし体験を実施した。
おもしろいぞ！紙芝居	毎月最終 土曜日 （全12回）	1,342人	ラストサタデープログラムの一環として、当館所蔵の街頭紙芝居を活用し、実演を行った。
センター北まつり紙芝 居	H26. 3. 23（日）	375人	当館所蔵の街頭紙芝居を活用し、センター北まつり会場と当館内で実演を行った。
「子どもアドベンチャー 2013」への参加	H25. 8. 20（火） （2回）	64人	市教育委員会主催の子ども向け夏休み企画「子に参加。絵巻物や考古資料の取り扱いを体験し、バックヤードの見学も行った。



大塚遺跡まつり 古代米一口体験



おもしろいぞ！紙芝居



大塚遺跡まつり 弓矢体験



エントランスホールコンサート

(8) エントランスホールコンサートの実施

当館の認知度を高め、新規来館者の開拓を図るため、エントランスホールを会場としてコンサートを開催しました。

事業名/開催日	事業実績等
第24回コンサート 「ヴァイオリン、チェロ、ピアノの華麗なる響き～名曲コンサート」 H25. 7. 14(日)	演奏者：ヴァイオリン／裕美穂子、チェロ／津留崎直紀、 ピアノ／田口千晴 来場者数：400人
第25回コンサート 「クリスマスほっとコンサート 聖なる響きをフルートとともに」 H25. 12. 22(日)	演奏者：フルート／富田朗子、ヴァイオリン／渡辺真帆子、 ヴァイオリン／末廣紗弓、ビオラ／堀江冬子、チェロ／元吉元子、 コントラバス／元吉寿夫、パーカッション／富田真由香 来場者数：301人

(9) ボランティアの活動支援

項目	事業内容
ボランティア事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民ボランティアにより、小中学校団体、及び一般来館者へ大塚・歳勝土遺跡公園、旧長沢家住宅の無料解説ガイドを行った。また、当事業は、ガイド研修を通じて登録者の考古学・歴史学に関する自己学習・生涯学習の支援を兼ねている。</li> <li>① ガイド登録者数：71人</li> <li>②登録期間 2年間（但し、希望者は2年間延長更新可）</li> <li>③基本ガイド時間 小学校団体 45分間 一般 60分間</li> </ul>



	<p>・学校団体来館時の対応や、ラストサタデープログラムなどの事業を支援してもらうことを目的とした、活動支援ボランティアを実施した。</p> <p>① 登録者数：42人</p> <p>② 活動実績</p> <p>4～6月学校団体対応火起こし疑似体験活動 ラストサタデープログラム体験イベント 勾玉教室、区民まつり、センター北まつり、感謝デー、都市発展記念館・ユーラシア文化館企画展ワークショップおよびイベント</p> <p>活動のべ人数 1,583人</p>
ガイドボランティア研修の実施	・館外研修会・研修講座等を開催した。

項 目		平成25年度	平成24年度	平成23年度
活動実績	ガイド実施日数(日)	305	310	310
	解説回数(回)	1,189	1,311	1,285
	1日平均解説回数(回)	3.90	4.11	4.05
	参加者数(人)	27,516	26,980	29,083
	団体対応(件)	286	298	321
	団体のうち学校数(校)	262	272	289



遺跡ガイドボランティアの活動状況



活動支援ボランティアの活動状況  
(あじろ編み体験)

(10) 学校連携事業の実施

学校利用を促進するために、エドゥケーターを中心に「学校の博物館利用研究会」及び「教材開発研究会」を運営し、展示資料案内の作成、また、「吉田新田」「出張土器づくり」についての小学校への出前授業と、近隣4区の小学校向けに常設展示室で吉田新田の説明を行いました。また、教職員を対象とした、吉田新田の学習会を行い、各区社会科研究会研修会の運営に参加協力しました。

事業名／開催日	事業内容等
学校の博物館利用研究会	<p>① 横浜市小学校社会科研究会所属の教員5人及び関係職員で構成。歴史博物館ホームページ掲載資料の内容検討を行った。</p> <p>② 歴史博物館ホームページ掲載「学習指導計画」検討。</p> <p>③ 歴史博物館ホームページ掲載「学習指導計画」完了。</p>
第1回 H25.6.29(土)	
第2回 H25.8.1(木)	
第3回 H25.1.11(土)	

教材開発研究会 第1回 H25. 6. 22(土) 第2回 H25. 9. 7(土) 第3回 H25. 1. 18(土)	① 横浜市立中学校教員5人、西部授業支援センター指導員1人、関係職員で構成。 ② 歴史博物館ホームページ掲載「学習指導計画」の検討。 ③ 歴史博物館ホームページ掲載「学習指導計画」完了。
教職員研修 H25. 8. 2(金)午前と午後の部	市教育委員会が主催する教職員研修を受け入れて実施した。 参加人数：午前 31人 午後 15人
教員5年研修 H25. 8. 14(水)・22(木)・24(土)	市教育委員会が主催する教職員5年研修を受け入れて実施した。 参加人数：1人(市ヶ尾高校)
月曜開館	学校団体の来館が多い4・5月の月曜日に臨時開館し(4日間)、混雑緩和と積極的な学校団体誘致を図った。
吉田新田訪問授業 8校 774人	9/20(金)・25(水) 川和東小学校 6クラス 228人 10/3(木) 稲荷台小学校 2クラス 50人 10/22(火) 池上小学校 2クラス 72人 10/31(木) 日野小学校 2クラス 42人 11/12(火) 永谷小学校 3クラス 94人 11/22(金) 藤が丘小学校 3クラス 107人 11/28(木) 高田東小学校 2クラス 58人 12/13(金) 菊名小学校 4クラス 123人
学校資料室への訪問授業 5校 632人	12/4(水)・5(木) 森の台小学校 5クラス 186人 1/9(木) 山下小学校 3クラス 93人 1/16(木) 戸部小学校 2クラス 49人 1/21(火) 川和東小学校 5クラス 186人 1/24(火) 勝田小学校 3クラス 118人
常設展示室 吉田新田説明 10校 949人	9/13(金) 俣野小学校 1クラス 24人 10/4(金) 勝田小学校 3クラス 102人 10/18(金) 鴨志田緑小学校 2クラス 62人 10/25(金) 牛久保小学校 4クラス 142人 10/25(金) 荏子田小学校 3クラス 95人 11/6(水) 霧ヶ丘小学校 4クラス 126人 11/19(火) 山下みどり台小学校 2クラス 81人 12/11(水) 中川小学校 4クラス 143人 12/17(火) 美しが丘東小学校 3クラス 96人 1/17(金) つづきの丘小学校 2クラス 78人
その他出前授業 縄文土器づくり 出前授業 4校 369人	横浜縄文土器づくりの会との協働で、市内の公立小学校へ出張して、土器づくりの指導を行った。 6/28(金)・7/17(水)・10/9(水) 下末吉小学校 児童24人 9/25(水) / 10/25(金)・11/22(金) 西富岡小学校 児童51人

その他 訪問授業 1校 35人	10/16 (水) 藤塚小学校 児童39人 12/13 (金)・1/17 (金)・2/25 (火) 三ツ沢小学校 児童35人 その他 訪問授業 10/23 (水) 黒須田小学校 35人 (テーマ・古代の食事)
教職員対象の吉田新田の学習会	授業での学習ポイントを説明 8/3 (金) 2回 39人、8/23 (金) 2回 26人
横浜市・各区研究会及び 関係団体への研修事業	玉川大学 寺本ゼミ歴史講座 5/11 (土) 15人 神奈川区社会科研究会 5/15 (水) 40人 戸塚区社会科研究会 5/15 (水) 35人 学校コーディネーター教育支援見本市 6/8 (土) 約200人 磯子区社会科研究会 6/12 (水) 20人 横浜市社会科研究会「歴史ウォーク」8/1.3 (水・土) 98人 緑区視聴覚研究会 1/29 (水) 35人
県立高校日本史「郷土かながわ」 関連授業	県立横浜緑園総合高校 7/30 (火) 生徒人参加 7人



縄文土器作り出前事業の様子

#### (11) 市民諸団体との協働事業

当館では市民と共に歩む博物館を目指して、博物館に集う市民諸団体と博物館のあり方を検討しつつ、協働事業を実施しました。当館主催の講座OB会である「横浜古文書を読む会」、「横浜縄文土器作りの会」、「横浜古代史料を読む会」、ガイドボランティアのOB会である「横浜さいかちの会」の4団体は、博物館と連携して定期的な活動を行っています。定期的な活動以外には、臨時講座の開催や出張授業や講座への協力なども実施しています。また、博物館の支援、博物館との協働を目的に「横浜歴博もりあげ隊」が結成され、活動しています。

項目	事業内容
「横浜古文書を読む会」との協働	毎月2回の講座の開催と、有志による「下読みの会」の実施。
「横浜縄文土器作りの会」との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>出張土器づくり教室（下末吉小・西富岡小・藤塚小・三ツ沢小）を実施した。</li> <li>実験考古学講座「縄文土器づくり」（H25.2.3～3.16 全4回）を実施した。</li> <li>横浜縄文土器づくりの会作品展（H25.1.19～27）を開催した。</li> <li>私たちがつくった縄文土器展（H25.3.17～24）を開催した。</li> </ul>

「横浜さいかちの会」との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季の史料購読講座の開催。</li> <li>・「日本書紀」を読む講座の開催。</li> </ul>
「横浜歴博もりあげ隊」との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連続古代史講座（４回）の実施。</li> <li>・博物館感謝デーにおける常設展示室クイズラリー、中国編みワークショップの実施。</li> <li>・「博物館デビュー支援事業」の学校アンケートの整理の実施。</li> </ul>

(12) 学校団体利用の推移（目標数 500 校）

項 目	平成 2 5 年度	平成 2 4 年度	平成 2 3 年度
学 校 数 (校)	4 2 5	4 3 1	4 8 4

うち小・中学校利用数

項 目	平成 2 5 年度	平成 2 4 年度	平成 2 3 年度
学校数 (校)	4 0 8	4 0 9	4 3 3
児童・生徒数 (人)	3 8, 6 2 3	3 9, 2 4 8	4 1, 3 0 8

(13) 実習・研修の受け入れ

項 目	事 業 内 容
博物館館務実習の受け入れ	<p>博物館学芸員資格の取得を目指す「博物館実習」受講生を受け入れ、指導を行った。</p> <p>(A コース：分散型) 6 名 9 日間 (5～11 月)</p> <p>(B コース：夏季集中型) 12 名 8 日間 (7～8 月)</p>
社会研修の受け入れ	<p>生徒・学生・社会人の職場体験・研修等を受け入れた。</p> <p>5 / 2 2 (水)・2 3 (木) 市立中川西中学校 6 人</p> <p>8 / 6～1 0 (火～土) 県立高校インターン 1 9 人</p> <p>9 / 1 8 (水)・1 9 (木) 市立川和中学校 8 人</p> <p>1 1 / 2 6～2 8 (火～木) 市立東山田中学校 1 2 人</p> <p>1 / 1 5 (水) 市立中山中学校 4 人</p> <p>1 / 1 6 (木) 横浜国立大学附属中学校 1 人</p> <p>1 / 1 7 (水) 市立茅ヶ崎中学校 4 人</p> <p>1 / 1 6 (木) 市立中川中学校 3 人</p> <p>1 / 2 9 (水)・3 0 (木) 市立荏田南中学校 8 人</p> <p>2 / 4 (火)～1 5 (土) フェリス女学院大学 1 人</p>

(14) 広報出版

項 目	事 業 内 容
リーフレット類作成	<p>歴史博物館案内パンフレット</p> <p>歴史博物館案内児童用パンフレット</p> <p>歴史博物館催し物案内 (年 2 回)</p> <p>通史展示解説シート</p>
出版物発行	<p>横浜市歴史博物館ニュース (2 回) 各 1 3, 0 0 0 部作成</p> <p>横浜市歴史博物館資料目録 第 2 2 集 7 0 0 部作成</p>

	横浜市歴史博物館紀要 第18号	800部作成
	横浜市歴史博物館調査研究報告 第10号	800部作成
その他広報	市営地下鉄6駅構内の広報案内看板による広報 市営地下鉄の車内放送による広報 インターネットによる広報 一般新聞・雑誌等への広告掲載による広報 都筑区民まつりへの出店参加による広報 市営地下鉄車内吊り広告による広報 FM放送への情報提供 グランドミュージアム北部エリア会議参加 ソーシャルメディアネットワークによる情報発信	

## 5 情報事業（定款第4条第1項第1号②）

インターネット等を利用して、文化財・歴史資料及び展示等に関する情報を提供するために、データの入力等を行い、文化財情報の発信に関わる機器類の保守管理を行いました。

項目	事業内容
収蔵資料等データ入力及びインターネット公開	収蔵資料、図書文献資料等のデータ入力及びインターネット公開を行った。 ・データ入力件数 合計2,876件 ・インターネット公開 収蔵資料情報の公開 合計50件（前年度50件） 図書文献資料情報の公開 合計2,936件（前年度2,027件）
映像資料の公開	スタディサロンで映像ビデオを公開した。
文化財情報システムの運用・保守	インターネット等による文化財情報の管理・発信やグループウェアに関わる機器類の保守を行った。
ホームページを利用した博物館情報の発信と市民ニーズの把握	博物館のホームページ上で、博物館の催し物案内をはじめ、展示・催し物・刊行物の広報や、収蔵資料・図書文献資料・市内文化財等の紹介を行った。 アクセス件数 合計378,529件（前年度338,907件）
ツイッターを利用した博物館の情報発信	ツイッターを利用した博物館の展覧会、体験学習、講座・講演会などの様々な情報を発信した。

## 6 歴史博物館施設維持事業（定款第4条第1項第1号③）

歴史博物館及び野外施設の維持管理・運営を行いました。

### （1）歴史博物館等の維持管理

管理対象施設等	事業内容・所在地など
歴史博物館	施設の維持管理、補修・修繕、燻蒸庫燻蒸・収蔵庫燻蒸の実施 スタディサロン・歴史劇場の運営

	講堂、研修室の貸出 主な修繕：不活性ガスボンベの交換、加圧給水装置、同制御盤、空調レタンファン、パッケージエアコン、空調用温水・冷水ポンプ等 所在地：都筑区中川中央一丁目
歴史博物館野外施設	国指定史跡「大塚・歳勝土遺跡公園」の管理 主な修繕：復元竪穴住居2棟及び高床倉庫の修繕。型取り遺構の修繕。レクチャー階段の修繕。復元木橋の修繕。工房の修繕。入口広場説明板の修繕。竪穴住居漏水防止養生施工。 所在地：都筑区大塚西

(2) 講堂・研修室利用の推移

項 目		平成25年度	平成24年度	平成23年度
講 堂	利 用 者 数 (人)	17,960	23,023	23,636
	利 用 件 数 (件)	185	171	156
	うち有料貸出件数 (件)	41	38	32
研 修 室	利 用 者 数 (人)	6,894	7,300	7,965
	利 用 件 数 (件)	254	242	281
	うち有料貸出件数 (件)	137	149	138

(3) 歴史博物館野外施設入場者の推移

項 目		平成25年度	平成24年度	平成23年度
歴 史 博 物 館 野 外 施 設 (人)		53,866	56,428	57,337
内 訳	大 塚 遺 跡 (人)	49,311	50,435	52,727
	工 房 (人)	4,575	5,993	4,610

## 7 学校内歴史資料室を活用した博物館デビュー支援事業

公開承認施設である当館を中核館として、「博物館デビュー支援事業実行委員会」を組織し、文化庁からの補助金を受け、(1)資料所在および授業活用状況調査事業、(2)校内歴史資料室を活用した授業案の事例検討・研修会開催事業、(3)街頭紙芝居による博物館体験促進と人材育成事業の3つの事業を実施した。

項 目	事 業 内 容
資料所在および授業活用状況調査事業	<p>市内の小学校が所蔵する資料の現状を把握することを目的として実施。</p> <p>1. 市内 342 小学校が所蔵する資料の所在、管理保管状況等の調査の実施。</p> <p>1) アンケート調査の実施：314 校より回答。整理・検討。</p> <p>2) 博物館を中核に調査団を組織し、資料の整理・目録化。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金沢区大道小学校所蔵資料の整理 (237 点)</li> <li>・都筑区川和小学校所蔵資料の整理 (560 点)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 港南区桜岡小学校所蔵資料の整理（150 点）</li> <li>・ 緑区中山小学校所蔵資料の整理（496 点）</li> </ul> <p>2. 「校内資料室」のある学校の授業活用に関する状況の調査</p> <p>1) アンケート調査の実施：対象校 78 校へ配布・回収。整理・検討。</p>
校内歴史資料室を活用した授業案の事例検討・研修会開催事業	<p>校内歴史資料室・所蔵資料を活用した授業のあり方を検討し、実践されている校内歴史資料室の事例や、所有資料の活用方法を、市内学校教諭に広く紹介し、教諭研修に資することを目的として実施。</p> <p>1. 事例検討会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 金沢区・大道小学校ふれあいむかし資料館の視察・検討会 8/24 日（土）</li> <li>・ 都筑区・川和小学校ふれあい郷土館の視察・検討会 10/4 日（木）</li> <li>・ 緑区・中山小学校郷土資料展示室の視察・検討会 12/24 日（火）</li> </ul> <p>2. 公開案研修会の実施</p> <p>2/2 日（土）「学校に歴史資料室をつくっちゃおう！フォーラム in 歴博」を開催 参加者：126 人</p> <p>3. 博物館デビュー・マナーブックの製作・配布</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 博物館における基礎的な事項やマナーに関して、歴史博物館、校内歴史資料室共通のブックを製作。</li> </ul> <p>変型版 32 ページ、 31,000 部製作</p>
街頭紙芝居による博物館体験促進と人材育成事業	<p>紙芝居上演活動を介して、博物館に馴染みのない近隣の小学校低学年や未就学児を対象に、博物館デビューをサポートする。</p> <p>1. 街頭紙芝居の複製製作活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鷺塚隆氏より寄贈された一誠会刊行紙芝居の複製製作。 86 巻を製作。</li> </ul> <p>2. 「おもしろいぞ！紙芝居」の上演活動</p> <p>1) 定期的上演活動（原則として毎月末の土曜日に、1 日 3 回上演） 全 12 回 参加者：1,342 人</p> <p>2) 臨時上演の実施</p> <p>チボリ兄弟舎紙芝居 8/17 日（土）・18（日）実施 参加者：196 人</p>
年報の作成	<p>3つの事業の実施概要、アンケート結果、整理した資料の目録、製作紙芝居の目録等を所載した「年報」を作成。</p>



資料整理の様子



フォーラムの様子

## 8 収益事業（定款第4条第1項第2号）

### （1）ミュージアムショップの経営

- ① 勾玉キット、火打石、絵葉書、ミニタオル、企画展図録等を販売しました。
- ② 企画展・イベントにあわせた商品をそろえ、開館記念日の特別セールを実施しました。
- ③ オリジナル商品を開発しました。

### （2）来館者駐車場の経営

### （3）自動販売機（5台）の設置

#### <各事業の推移>

#### （1）ミュージアムショップ売上の推移

項 目	平成25年度	平成24年度	平成23年度
横浜市歴史博物館（千円）	8,879	8,097	7,082

#### （2）駐車場の経営

歴史博物館の来館者用駐車場を経営しました。（館内32台、屋外140台）

項 目	平成25年度	平成24年度	平成23年度
利 用 台 数（台）	5,465	5,808	5,955
月あたり利用台数（台/月）	455	484	496
料 金 収 入（千円）	2,190	2,365	2,336

#### （3）自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、自動販売機を設置しました。

項 目	平成25年度	平成24年度	平成23年度
横浜市歴史博物館（千円）	310	360	347

### 事業別評価

事業名称	実施概要	評価
資料収集保管事業	資料購入・寄贈による資料収集を行うとともに、複製資料の制作やマイクロフィルム制作などによる収集活動を着実に行いました。しかし、歴史収蔵庫において虫害が確認され、資料の保管体	C



	制が不十分であったことを反省し、今後の対応策を立て、実施に移しました。収集資料の整理・保管・データ入力、資料の修繕を進めました。また、画像資料の有料貸出も継続しました。	
<b>調査研究事業</b>	収蔵資料に関する調査研究を3本、また地域資料に関する調査研究を2本実施し、その成果は報告書として刊行・公開しました。市民協働による民俗調査研究もその成果を展覧会として公開する方向へ進みました。26年度以降の企画展の基礎調査も計画通り実施しました。	B
<b>常設展事業</b>	来館者に気持ち良く観覧してもらうため、定期のメンテナンスや部品交換、修繕、清掃等を計画通り実施し維持管理に努めました。また、修繕不可能となった部分に関して展示替えを行うことを検討し、その準備を行いました。 学芸員による展示解説、収蔵資料ミニ展示及び解説等は定着しています。ただ常設展示の入場者数は、目標の91%で、目標には達しませんでした。	C
<b>企画普及事業</b>	当初計画した様々な事業は予定通り実施しました。企画展・特別展の入場者は目標の101%という結果でした。夏期から秋期には観覧者が減少しましたが、冬期の展覧会が好評で、目標は達成できました。 市民協働においては、活動支援ボランティアが定着し、講座OB団体の活動の他に「横浜歴博もりあげ隊」が活動を展開し始めました。学校連携としては、吉田新田の出前授業・常設展示室吉田新田コーナーの解説・教職員向けの研修など着実に実施しました。	B
<b>情報事業</b>	館内の端末での情報提供とインターネットでの収蔵資料情報の公開等、情報発信を計画に基づき実施しました。インターネットへのアクセス数は、昨年より1割強増加しました。	B
<b>施設維持事業</b>	経年劣化が進んでいる博物館施設、遺跡公園の施設等の維持管理を適切に実施しました。不活性ガスボンベの交換などの施設維持と、野外施設では劣化した復元竪穴住居と高床式倉庫、木橋などの大規模な修繕と案内板などの修復を実施しま	B

	した。	
<b>博物館デビュー支援事業</b>	文化庁の補助金を得て、今年度より実施しました。市内小学校所蔵資料の状況確認アンケートの実施、調査チームを編成しての資料の整理・調査、先進的な取り組みを行っている小学校の歴史資料室の視察・検討会の開催、一般公開のフォーラムの開催、「博物館マナーブック」の製作などを行いました。また、紙芝居の定期的な実演、複製製作も実施しました。当初の計画通りに事業を実施することができ、新聞やテレビなどマスコミにも取り上げられ、事業効果も大きかったとみられます。	A
<b>収益事業</b>	ショップ売上は前年度比 110%と大幅な増収を達成した。企画展に合わせた品揃えの変更や図録のセット販売など、増収策が実を結んだと言える。駐車場利用は減となり、近隣に駐車場完備の大型商業施設が増える中、当館見学のみの方以外の利用を見込むのが年々難しくなっている。収入予算に対してはショップ 111%、駐車場 114%であった。	B